

CULTURE 高槻市の新たな観光スポット 安満遺跡公園、3/27(土)に全面開園

安満遺跡公園(高槻市八丁畷町)が、3/27(土)にいよいよ全面開園を迎える。京大農場の移転に伴い、その跡地を含めた一帯を、弥生時代の"安満遺跡"を保存・活用しながら防災機能も備えた公園として約10年かけて整備されてきた。2019年に一次開園を行いファミリー層を中心に市民の憩いの場として親しまれているが、今回の全面開園では21.8ha(甲子園球場5個分)もの広大な土地が一般利用可能になる。

旧京大農場建物をリノベーションした歴史拠点、大きな屋根のあるSAKURA広場、ふわふわドームなどがあり、カフェやベトナムビスケットなどの民間施設もオープン



※イメージ画像

する。新規開園エリアは、3/27(土)の午前9時から一般開放予定。ソーシャルディスタンスを守りながら最大1,000人の参加者があつまる「ソーシャルディスタンスセレモニー」も開催される(参加申込は終了)。緑豊かなオープンスペースでは今後様々なイベントも開催予定とのこと。高槻の新たな観光スポットとして周知されていくだろう。

SOCIAL コロナに関する給付、 支援金など改正や新たな制度も

【個人向け一時支援金・プレミアム付き商品券】

対象	全国民	高槻市民
制度名	低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金(仮称)	プレミアム付き商品券事業第二弾
条件内容	児童扶養手当受給者等(低所得の1人親世帯)および、住民税非課税の子育て世帯(低所得の2人親世帯含む)に子ども1人あたりに一律5万円を支給	5,000円分の商品券(500円券10枚綴り)を2,000円で販売。プレミアム率150%(購入額の2.5倍で使用可)。1世帯あたり2冊(1万円分)まで購入可能。購入引換券の送付は5月中の開始を予定

【事業者向け一時支援金】

2021年1月に発令された緊急事態宣言に伴う、飲食店の時短営業や不要不急の外出・移動の自粛により、売上が50%以上減少した中小法人・個人事業者などに「緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金」が給付される。

給付額	2019年又は2020年の対象期間の合計売上ー2021年の対象月の売上×3ヵ月
中小法人等	上限60万円
対象期間	1月～3月
個人事業者等	上限30万円
申請受付期間	2021年3月8日～5月31日

給付対象のポイント

- ① 給付要件を満たす事業者であれば、業種や所在地を問わず給付対象
- ② 地方公共団体から時短営業の要請を受けた「協力金」の支給対象の飲食店は給付対象外
- ③ 店舗単位・事業単位でなく、事業者単位で給付

【茨木市事業者応援給付金】

「茨木市内に事業所を有している」「大阪府営業時間短縮協力金(1日6万円)の対象でない」などが条件。1律6万円を給付。3月30日まで。

■「雇用調整助成金」特例措置は、縮減されながらも継続されると厚生労働省が方針を発表した。

※詳細は各ウェブサイトを確認(3月19日時点)

SOCIAL 高槻市、希望する自治会などに対して 回覧板の無料配布を実施

自治会などで使用される「回覧板」。各会が各々の費用負担で用意することが多いが、実は高槻市では希望する自治会などに対して特殊詐欺被害防止啓発を目的とした回覧板の無料配布を行っていることをご存じだろうか。用意しているのは高槻市立消費生活センター。近年増加する特殊詐欺の手口や対策、相談先を記載した回覧板。1,500冊用意されてお



り、無くなり次第終了となる。
相談窓口/TEL.072-682-0999
(月～金 9時～12時、13時～17時、
土日祝日・年末年始は休み)



株式会社松本製作所の「アロマシール」 有限会社岡田工芸社の「BOSS HOBBY スクエア・プレート」

1月末に行われた第4回摂津ブランド認定式の様子

SOCIAL 令和2年度の 「摂津優品(せっつすぐれもん)」決まる

摂津市と摂津市商工会が一体となり取り組む摂津ブランド認定制度、「摂津優品」の第4回認定式が1月26日に執り行われた。これは一定基準を満たせば「ものづくりのまち摂津」が誇る商品として認定する制度で、市内の中小企業を応援するプロジェクトだ。既に認定済みの10商品に加え、今年度は「アロマシール」(株式会社松本製作所)と「BOSS HOBBY スクエア・プレート」(有限

会社岡田工芸社)の2商品が新たに認定された。前者は、独自生産技術「定量滴下」により安定した大量生産を可能とした、マスクなどに貼って使う香り付けシール。後者は下塗り塗装の反射によって印刷画像に深みを与えた商品で、知育玩具のみならずメモリアルプレートにもなるもの。森山摂津市長は「いずれも地域性が生かされ、生産者の摂津愛に溢れたこだわりの逸品だ」と総評した。



(左)岩手県の釜石市の南部藩壽松院年行司支配太神楽(なんぶはんじゅしょういんねんぎょうじしはいだいかぐら)

(右)国立民族学博物館、広報の伊藤さん

CULTURE 東日本大震災から10年 地域文化の力を伝える特別展開催中

国立民族学博物館(吹田市)で、特別展「復興を支える地域の文化ー3・11から10年」が開催されている。5月18日まで。

実行委員長・日高真吾さんによると、東日本大震災では、郷土芸能の再開が復興の原動力となった。そこで、第1章では三陸に伝わる郷土芸能「仰山流世崎鹿踊り」(大船渡市)、「大槌城山虎舞」(上閉伊郡大槌町)など6つの芸能を紹介。復興を後押しする地域文化の可能性を探る。会場には祭囃子が流れ、衣装をまとったスポーツ用のマネキンが芸能特有の動きを細部まで再現。現地の雰囲気も伝えている。

第2章では、被災した文化財を救出し、保管する「文化財レスキュー」の活動を紹介。石巻市釜谷地区で救出された、同地区の檀那寺「観音寺」の「大般若経」や、獅子舞で用いる「獅子頭」などが展示される。これらは同地区で江戸時代から続く「大般若経巡行行事」で用いられるもので、「大般若経」は地域住民によって自主的に瓦礫の中から拾い集められ、技術者の指導のもと

修復作業が進められた。

第3章では、宮城県西部に位置する牡鹿半島鮎川浜の捕鯨文化などを紹介し、地域文化が災害をきっかけに意識され、あらたに研究が進められていくことを伝えている。第4章では、明治29年の津波を伝える岩手県釜石市の「海嘯遭難記念の碑」など、被災の教訓を後世に伝える記録を展示する。

12枚の大漁旗が会場を彩り、復興を支えてきた漁師町の地域文化に触れることができる本展。同館の人文知コミュニケーター神野知恵さんは「地域の人のために行われてきた東北地方の郷土芸能は、これまで関西ではあまり知られてこなかった。外出が難しい状況ではあるが、たくさんの人に来てもらえたら」と話している。

関連イベントとして、南三陸町の漁村・波伝谷に密着した「願いと揺らぎ」、石川県輪島市皆月の山王祭をめぐる人々を描いた「明日に向かって曳け」の上映会なども開催。要事前申し込み。詳しくは同館ウェブサイト。

CULTURE CityLife創刊35周年記念企画 「北摂まち本」

情報紙CityLifeの取材を通して見えてきた、北摂ならではの魅力。それらを1冊にまとめたムック本を6月下旬に発売する。「地元の魅力を再認識してもらうきっかけになれば」という思いから、まちの歴史や文化、豊かな暮らしを支える商店、さらに人に焦点をあてた特集など、様々な角度から北摂の魅力を紹介していく。



北摂まち本

[発売日] 6月下旬 価格:未定
[販売] 北摂エリア、大阪、神戸、京都、滋賀の書店、
北摂エリアのコンビニ